

大沼法竜著

親比念願親了遺訓

敬行寺發行



昭和46年 76才 新築応接室にて元日写す

は し が き

悉多太子は誕生されたとき、六歩あゆみ七歩目に天を指差し、地を指差して「天上天下唯我独尊、三界皆苦吾当安此」と仰せられました。

六歩とは、六道の迷いの世界を踏切って、七歩目で四聖の悟りの世界に入って大自らの尊さを悟り、天上にも地上にも人間独り尊し、万物の霊長たる人間は三世因果の道理を聞かされて合点し、領解し実行することができるとも、下等動物は宗教を聞き得る能力もなく、実行する智慧もないから、悟りの世界に進むことができないと教えてあります。

せっかく人間に受生しながら、本能のままに狂わされて酔生夢死すれば、霊長でなくとも長であります。

三界は皆苦なりとは、迷いの世界は皆苦であります。有田憂田、有宅憂宅とは、田

有れば不作や水害が苦になり、宅有れば掃除や修繕が苦になり、無い者は無くて泣く、長命で貧苦で泣いている者もおれば、短命で志を遂げきれないで泣いている者もいる、名利に追いまわされて苦しんでいる者もおれば、惨敗下落して怨み呪うている者もいる。勝った敗けた、取った盗られた、出世が早いと威張ってみたり、いつまでも下積みで頭が上らないと悔んでいる者もいる。名利や物質の増減によって、喜怒哀楽の顔面神経をビリビリさして一生涯を送っているのです。子供があつて悩み、なくて苦しむ、限りのない慾望で限りのある物質を擅にしようとして藻掻いているのを鬼というのでありますが、名誉の餓鬼、利益の餓鬼、色慾の餓鬼、食慾の餓鬼、蛆虫が上になったり下になったりしているのと五十歩百歩であります。戦いが終わった残骸を、山の端に沈む薄暗い残月で眺めてごらん下さい、哀れな姿ではありませんか。源平の栄枯盛衰も一場の夢なら、豊太閤の歡樂も稲妻よりも早く過ぎ去っているではありませんか。

一生涯の幕を閉じるときは、心身ともに大苦惱、いつたい誰のために働き、何の目的で進んできたのでしょうか。血眼になって集めた名利も、追いまわした物質も夢と消え、幻となって去って行き、残るものは後悔の涙のみではありませんか。宗教的にいえば、業（罪）のみ荷うて次の世界に行かねばなりません。用意ができましたか、つぎの世界に移る準備が整いました。が、残る物質は兄弟姉妹や親族のものが血みどろになってむしり取っても、作った業、犯した罪だけは誰も荷うてはくれませんよ。これを三界は皆苦なりとおっしゃったのであります。

吾当安此とは吾当に此に安んずべしということ、この苦惱の充満している中に生活しながら、精神的の満足を得て安らかな生活をしているから、人々よ心眼を開きさえすれば、この人世ほど尊い、安らかな境界はないと教えてあるのですよ。

私も、宗教は死ぬる用意と思つていましたが、生きる用意でありました。この人生ほど尊い世界はありません。生死の苦海のままが光明の広海と変り、不足不満の人世

が至徳具足の益で大満足となり、逆境苦惱の世の中が転悪成善の益で大慶喜の生活と変わるのであります。

凡夫は煩惱があるから喜べるものではないと始めから決めていますが、あなたは歎異鈔の第九節を固執して喜ばれないのを手柄のように考えておられますが、歎異鈔は信後の懺悔であり、あなたは信前の入口で御言葉の真似をしているだけで、真仮の分際がわからないのですから、如来広大の恩徳を迷失しておいでのになるのです。

聖人さまは信仰の徹底したときの慶びを、「一念と言ふは信楽開発の時尅の極促を顕はし、広大難思の慶心を彰はす」とか、「極重の悪人、大慶喜を獲て諸の聖尊の重愛を得るなり」とか、「獲信見敬大慶喜」とか、「心多歡喜の益」とか、「无上の信心を獲れば大慶喜を得る」とか申されてあるお言葉を読んだことではないのですか。あなたはお聖教を合点しているだけで、摂取されていない、仏智が満入していない、仏凡一体になつていないから喜びがないのですよ。だから喜べないと書いてある歎異

鈔しやうが自分じぶんの心こころにぴったり合あうから凡夫ぼんぷは煩惱ぼんのうがあるから喜よろこべるものではないと固執こしつしておいでになります、鬼おにが仏ほとけになるのですよ、迷まよいを転てんじて仏ほとけになる正定聚しょうじょうじゆの菩薩ぼさつにさして頂いたいたのですよ、煩惱ぼんのうと菩提ぼだいとが一体たいになったのですよ。死し後ごのお助けたすを夢ゆめ見みている人ひとは話はなしを聞きいていいますから、慶よろこべるはずがありません。平生業成へいぜいごうじやうで今撰いません取しゆされた人ひとなら、

罪障功德ざいしょうくどくの体たいとなる

こほりと水みずのごとくにて

こほりおききに水みずおほし

障さわり多おほきに徳多とくおほし。

で、信仰しんじゆうに喜よろこびがないとおっしゃる方は信仰しんじゆうが贖物にせものですから喜よろこべないのです。徹底てつていしていないから喜よろこべないのです。一体たいになつていないから、煩惱ぼんのうばかり見みえて喜よろこべないのです。

歎異鈔たんいしやうのお言葉ことばは七十、八十の老後らうごになつて、聖人しょうにんさま、かゝる広大くわうだいなお慈悲じひに撰せん取しゆされておりながら、喜よろこび得えない、死しにともないとは何なんとこの世よに執着しゆちやくのある浅あきま

しい根性でございましょうかと懺悔されたのに対しての聖人のお言葉であつて、獲信しても歡喜のないというところに使用しては、桁が違ふということをお忘れはなりません。

五劫思惟の願をよく／＼案ずれば親鸞一人が為なりけりと仰せられたように、十方法界法竜一人の為なりけりで、この人世最高无上の幸福者は法竜一人という大慶喜があります。生かされている尊さ、息するままが南無阿彌陀仏、死後は親につれられて行く嬉しさ、生かされている今が南無阿彌陀仏と一体ですから憶念の心常にして、煩惱の作用くところは悉く念仏の作用いているところであります。

信仰が徹底すれば、仏心と凡心とが一体ですから、寝ても覚めても称名は溢れて喜ばれるのです。喜ばれないのは仏心と凡心とが離れているからです。それなら喜ばれなければ往生はできないかと逆に質問されるれば、往生が決まったから喜べるので、死んでお助けの人は今が助かつていないから喜ばれないのだとお答えします。

名号不思議の海水は

逆謗の屍骸もとどまらず

衆悪の万川帰しぬれば

功德のうしほに一味なり。

尽十方无碍光の

大悲大願の海水に

煩惱の衆流帰しぬれば

智慧のうしほに一味なり。

彌陀智願の広海に

凡夫善悪の心水も

帰入しぬればすなはちに

大悲心とぞ転ずなる。

五濁悪世の有情の

選択本願信すれば

不可称不可説不可思議の

功德は行者の身にみたり。

仏智が満入しているのなら

心多歡喜で溢れる喜びであります、お聖教に調子を合

わせ、信仰の真似をして、死後を楽しんでいりますから現生に十種の益もなければ

慶喜もないのです。実地の求道が如何に尊いかということをお忘れはなりません。

この因果経を骨子として、前篇は私が宗教教育を受けた幸福を喜び、中篇は皆さ

まの信仰しんこうを子孫しそんに伝えたい、親おやの念願ねんがん、親おやの遺訓いくんを書き、後篇こうへんは仏祖ぶつその真意しんいがここに
あると仏おやの念願ねんがんを書いたのであります。

なるべく専門語せんもんごを使用しようしなくて理解りかいし易やすいようにと念願ねんがんしながら、智恵ちえもなく頭あたまも
悪わるく、皆みなさまの御期待ごきたいに添そうことができませんが、お赦ゆるし願ねがいたいと存ぞんじます。